

ぶんかざい おおた

令和6年(2024)10月 発行

大田区教育委員会 大田図書館 編集
文化財担当

〒143-0025
東京都大田区南馬込五丁目11番13号
(大田区立郷土博物館内)
TEL 03-3777-1281 FAX 03-3777-1283

目次

- ◆特集 新たに国登録文化財となった建造物「旧川端龍子邸」「龍子記念館」… 1
- ◆修理・調査報告 宝幢院阿弥陀如来立像… 4
- ◆全国初の形状!? 中世の地下式坑出土! 田園調布本町26番遺跡… 5
- ◆横穴墓追加発見!! ~地中レーダー探査の成果~ 宝来公園内横穴墓… 6
- ◇令和5年度事業報告・新刊のご案内 … 8

第27号

特集 新たに国登録文化財となった建造物 「旧川端龍子邸」「龍子記念館」



写真1 旧川端龍子邸主屋(玄関外観)



「青龍社」の
シンボルマーク

令和6(2024)年3月6日付で、いずれも大田区立施設である「旧川端龍子邸(主屋及び中門・仏間棟・かわばたりゅうし おもや ちゅうもん ぶつまどう持仏堂・画室)」と「龍子記念館」が、国登録有形文化財(建造物)となりました。日本画の巨匠・川端龍子(1885-1966)の作品はこれまでも知られていましたが、今後は作品を生み出した画室や展示施設である記念館、そして自宅や庭も含めて、より総合的に魅力を発信できるようになります。

建造物の「登録」制度は平成8(1996)年から始まったもので、築50年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを国が文化財として登録することで、「指定」よりも緩やかな規制の中で保存・活用を促そうという取組みです。

川端龍子について

本名を昇太郎といいます。明治18(1885)年和歌山県に生まれ、同37(1904)年より洋画を学んだ後に渡米し、帰国後は日本画家に転向しました。大正6(1917)年、日本美術院の同人となるも、昭和3(1928)年に脱退して翌年青龍社を創立します。会場芸術を唱え、革新的な画風による大作を数多く制作し、昭和34(1959)年には文化勲章を受章しました。(詳しくは龍子記念館HP・パンフレットなどを参照)

自伝に「普請道楽^{ふしんどうらく}」「趣味として建築を楽しむ」と記しており、自宅や記念館はいずれも龍子の構想に基づいて設計されています。

旧川端龍子邸について

南馬込の住宅地に位置する旧川端龍子邸(南馬込4-49-11)は、敷地中央に主屋及び中門、仏間棟、持仏堂(以上、「居住部」)を東西に並べ、その北東に画室を置くという配置になっています(図1)。龍子は大正9(1920)年から、昭和41(1966)年に没するまでこの地に居住しました。

平成5(1993)年に画室の敷地を大田区が買い入れ、建物は寄贈されました。居住部にはその後も龍子の遺族が暮らしていましたが、平成15(2003)年に国への物納を経て大田区が取得し、敷地全体が「大田区立龍子公園」として整備され現在に至ります。園内は、龍子記念館の開館日にスタッフの案内で見学することができます。ただし、各建造物の内部は非公開となっておりますのでご了承ください。

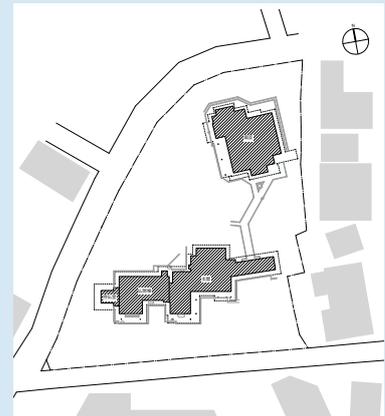


図1 龍子公園配置図

1. 主屋及び中門

昭和20(1945)年の空襲により住居が焼失したため、同26(1951)年に再建されたのが現主屋です。棟札に書かれた設計者・大川正平は、昭和17(1942)年に龍子の修善寺別邸(静岡県)を建てた大工であり、同29(1954)年には主屋東側への中門増築も手がけています。中門は敷地北側の庭と画室への入口として、ゾーンを分ける役割を果たしています。

なお、龍子自身の発案で空襲の爆撃跡には「爆弾散華^{ばくだんさんげ}の池」が造成されています。



写真2 旧川端龍子邸主屋
南側外観(客間)

2. 仏間棟

昭和30(1955)年に主屋西側に増築された部分で、主屋と同じく龍子が構想し、大川正平が施工しています。さらに西側に設けられた持仏堂の鑑賞室となる仏間が主要な室で、持仏堂への出入口には「桜芥子図^{けし}」が描かれた襖4枚があり、作者は国宝『風神雷神図屏風^{びょうぶ}』で知られる江戸時代初期の画家・俵屋宗達^{たわらやそうたつ}と伝わります(現在は複製を設置)。それぞれの引手には「花」「鳥」「風」「月」の文字が入っています。



写真3 旧川端龍子邸仏間棟 襖



3. 持仏堂

棟札は確認されていませんが、仏間棟と同年に増築されたと考えられます。仏教の信仰が篤かった龍子が所蔵した「十一面観音」とその脇侍「毘沙門天」、「不動明王」（いずれも現在は東京国立博物館収蔵）の各立像を安置するための部屋で、火災に備えてコンクリートブロック造とし、鉄製の防火戸を設置しています。内部の天井や窓は西洋の教会建築を思わせる尖頭アーチ型で、わずかに差し込む自然光と相まって幻想的な空間を演出しています。龍子はここで毎日灯明、焼香、礼拝をしたそうです。



写真4 旧川端龍子邸持仏堂 内観

4. 画室



写真5 旧川端龍子邸画室内観（北側から）

園内に現存する建造物では最も古く、昭和13（1938）年に上棟しました。敷地の北東に位置し、居住部と北側の庭を囲むような配置となっています。内部は広さが約5間×6間（1間は約1.8m）、天井の高さが約4mに達する大空間で、木造の和風建築でありながら柱のない構造をしています（基礎部分は鉄筋コンクリート造）。まさに大作を多く手がけた龍子の特徴を表した、美術史上に見ても貴重な建造物といえます。

現在の室内には、龍子が生前に使用した画材がそのままに展示されています。

龍子記念館（中央4-2-1）



龍子公園から道路をはさんだ南側に立地します。龍子の文化勲章受章と喜寿（77歳）を記念し、龍子と青龍社同人の作品を展示する美術館として、昭和37（1962）年に竣工、翌年に開館しました。構想、命名ともに龍子自身によるものです。

当初より社団法人青龍社が運営してきましたが、その解散にともない、平成3（1991）年に大田区が寄贈を受け事業を引き継いでいます。その際、改修が施されていますが大幅な改造はおこなわれず、基本的に当初の形態が保たれています。

建物を上から見ると、「龍子」の由来である「龍の子＝タツノオトシゴ」のような特異な形状をしており、その屈曲が単一空間である展示室内に視覚的变化を与える効果をもたらしています。また一方で、大型の作品を展示するための広い壁面と、作品を少し離れて鑑賞できる通路幅も確保した設計となっています。

龍子記念館利用案内

右の二次元コードからご覧ください。



（田島）

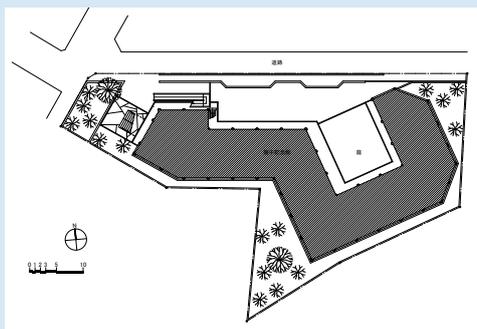


図2 龍子記念館配置図

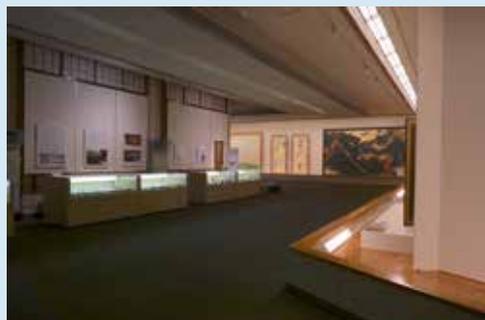


写真6 龍子記念館 展示室内観

文化財は、人間の文化の中で生み出され、守り伝えられてきた宝物ですが、経年劣化や不慮の損傷から逃れることはできません。歴史的・芸術的価値を保った状態で次世代に伝えるには、適切な修理が重要であるため、大田区では、区内所在の指定文化財の修理事業に補助金を交付しています。令和5年度は、専門家の指導のもと、宝幢院の阿弥陀如来立像（右写真）の修理事業を実施しました。

宝幢院は、鎌倉時代に開かれたと伝わる真言宗智山派の寺院です。開創期の様相は詳らかではありませんが、戦国時代以降、後北条氏や歴代の徳川将軍の庇護を受け、多摩川下流域におよそ50の末寺を抱えました。本堂に本尊として祀られる阿弥陀如来立像は、像高68.3cm、ヒノキ材の寄木造りで、表面に漆箔（漆を下地として金箔を貼る技法）・金泥塗り（金粉を膠でといて塗る技法）をほどこし、水晶製の玉眼をはめ込んでいます。現在、表面は後の修理による厚い漆箔や彩色に覆われていますが、作風や構造から、南北朝時代から室町時代（14世紀-15世紀）の作とみられます。区内では稀少な中世の仏像です。

本像は、右足先の材が脱落し、光背が像背面に接触して負荷をかけていたため、修理が必要と判断され、令和5年5月に仏像修理専門業者である明古堂の工房に運ばれました。解体中の調査では、構造や保存状態が明らかになったほか、複数の修理銘が発見されました。

像体部の内側には、過去3回の修理時に記された墨書があります。初回の修理は、宝幢院住職の賢淳の本願により、天文22年（1553）におこなわれました（銘文①）。本像がこの頃から宝幢院の本尊であったことがわかります。文政11年（1828）の2度目の修理は、大仏師 楠松五郎が家内安全の願いをこめて手がけました（銘文②）。松五郎は、下沼部村（大田区田園調布本町、川崎市中原区付近）に居住し、現在の大田区、世田谷区、川崎市を中心に活動した楠姓仏師の4代目です。体部前面材の下方にある3度目の修理の銘文によれば、本像は、戦中の空襲を避け防空壕に移された際、破損してしまったようです。住職花川良光を願主とし、浅草の仏師真野辰三郎により、昭和23年（1948）に修理されました。

なお、台座と光背は、台座の下框（最下部の八角形の台）底板にある墨書によれば、寛永16年（1639）に、住職の順栄を願主とし、念仏講が結縁して、鎌倉仏師の法橋賢養と三橋道湛により製作されたものです。本銘文は、大田区では近世に多摩川流域で特にさかんであったとされる念仏講の活動を示す区内最古の史料でもあります。

令和6年2月、右足先の材を接着し、像本体を前傾させて光背と接触しないようにする修理が完了しました。これを記念し、現住職の原隆政さんが、結縁者の氏名や世界情勢、平和を祈る願文などをしたためた紙巻を像内に納入されました。はるか先の未来、本像がふたたび修理される時に銘文を目にする人々も、本像を守り伝えた先人たちや地域の歴史に思いを馳せることでしょう。



宝幢院 阿弥陀如来立像



銘文①（体部背面材）

※銘文は前面材に続く



銘文②（体部左方）

奉再興宝幢院御本尊阿弥陀如来
本願当住権大僧都法印大和尚位賢淳

再建 文政十一年
子ノ八月吉日
大仏師 下沼部村住人
楠松五郎家内安全

*写真提供：明古堂

遺

跡

Ⅰ 全国初の形状！？中世の地下式坑出土！

ちかしきこう

本稿では、令和5年5月に大田区田園調布本町26番において発掘調査を実施した中世の地下式坑について紹介します。本調査地点は区の北西部にあたり、武蔵野台地の南西縁辺部で西側に多摩川を臨む崖線上に立地しています(図1)。

遺構の調査は建物解体時に、空洞が見つかったことに端を発します。天井部分が崩落していたため、遺跡の性格から当初は横穴墓を想定して調査が開始されました。ところが、横穴墓の付属施設は検出されず、土砂を除去したところ、空洞部の南東側に2か所の横穴と2基の^{よこあなほ}縦坑が検出され、地下式坑と断定するに至りました(図2)。

地下式坑には2基の横穴(以下、横穴a・b)と縦坑(以下、縦坑a・b)がみられ、遺構の切り合い関係から、縦坑aの方が新しいこと、そして、土層堆積状況の観察から当初の縦坑bは、すでに構築されていた井戸を利用して造られたことが判明しました。

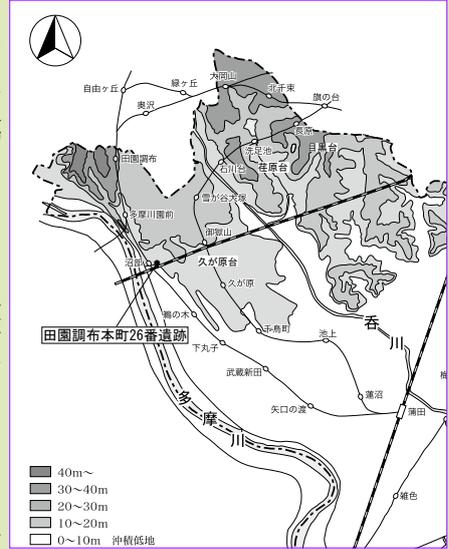


図1 遺跡の立地

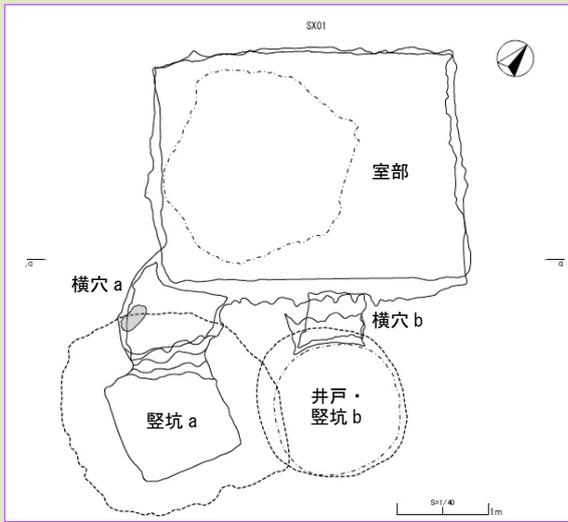


図2 遺構配置図

掘り当てていることから、縦坑aの構築時期は縦坑bの閉塞から大きな時間差は無いものと推測されます。そして、最終的には縦坑aも閉塞されますが、室部は空洞のままであったと考えられます。

出土遺物は縦坑aに集中しており、中世陶器3点、中世土器14点、石製品1点などが出土しています。古いもので15世紀代の陶器、次いで、16世紀代のかかわりがみられることから、おおむねその年代に縦坑aが閉塞されたと考えられます。石製品は板状の緑泥片岩の破片で、板碑片の可能性は否定できません。

今回、区内で初めて中世の地下式坑の発掘調査が実施され、用途は不明なもの、その構造に関しては類例がほとんど無く注目されます。また、当該地の北側には旧中原街道が通り、南側の地域には中世の塚や寺社が立地しており、中世の人々の営みが垣間見える重要な追加事例となりました。区内外の事例とあわせて、今後も調査・研究を進めていきたいと考えます。(門内)

縦坑bの平面形は、縦坑aがややいびつな隅丸方形であるのに対して、円形を呈し、壁はほぼ垂直に立ち上がり、かつての井戸の形状を維持しています。室部の底部と同じ深さまで井戸を埋め戻すことで縦坑の底面として、横穴bへと連結させ室部へと通じます。井戸の埋め戻しには横穴bと室部の掘削によって生じた排出土を用いたことが推測されます(写真1・2)。

また、上記のように縦坑aは縦坑bよりも新しく、縦坑bの閉塞後に縦坑aが開削されています。両者は上部では重複するものの、底部では完全に離れた位置に掘削されています。しかし、縦坑a・横



写真1 遺構全景(南から撮影)



写真2 2つの横穴と縦坑(室部から撮影)

宝来公園内横穴墓【大田区遺跡番号60】

遺

跡

2 よこあなぼ 横穴墓追加発見！！～地中レーダー探査の成果～

区立宝来公園（田園調布三丁目31番）内では、古墳時代終末期から奈良時代のお墓である「横穴墓」が地中に存在することがすでにわかっており、公園のほぼ全域が「宝来公園内横穴墓（大田区遺跡番号4）」として埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に登録されています。

横穴墓発見の経緯は、平成6年度に公園地下水の状況を確認するため、土中に金属の筒を入れて土層を採取するボーリング調査を実施したところ、地表面から約2.5～4m地下で高さ約1.5mの空洞が見つかったことです。この空洞は区内発見の他の横穴墓と同様に、台地斜面中腹の関東ローム層を掘りぬいており、規模も似ていることから、横穴墓と判断されました。しかし、当時の図面は大まかな場所が示されているのみで、情報は多くありませんでした。

また、令和4年度まで数年にわたり近接する区立多摩川台公園内で地中レーダー探査（電磁波を特殊な機械で地中に向けて放射し、返ってきた電磁波の波形や信号から地中にどんなものがあるか非破壊で調査することができる方法）を実施してきましたが、土中の排水管や大きな岩などにも反射するため、どのような波形・信号が測定できたら横穴墓であるのか、測定結果の判断が難しいことがありました。

そこで昨年度、宝来公園にて①平成6年にみつかった横穴墓の位置を正確に把握すること、②横穴墓の正確なレーダー探査結果（波形や信号）を取得すること、③ほかの横穴墓の存在を確認すること、を目的として、地中レーダー探査を実施しました。

探査の結果、平成6年度の横穴墓（1号横穴墓）が発見され、位置が特定できただけでなく、南東側に2基目（2号横穴墓）の横穴墓があることがわかりました。262㎡と狭い範囲のみを対象にしたため、担当者もびっくりの結果です！



図1 遺跡の立地（国土地理webに加筆）

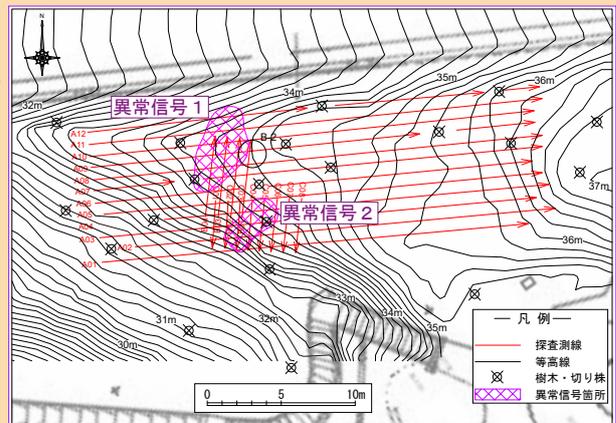


図2 測線（調査位置）と異常信号

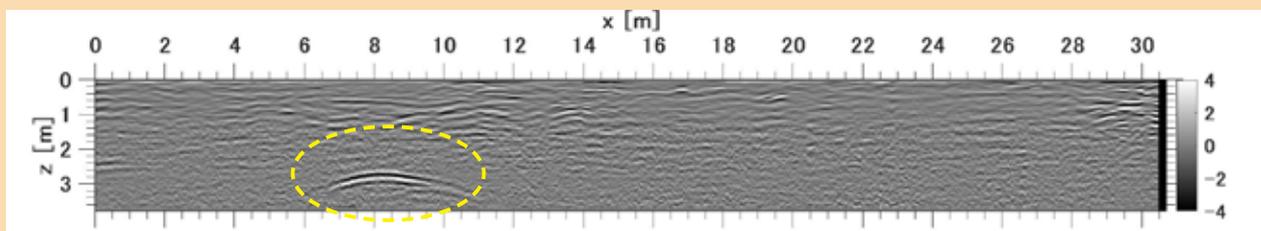


図3 縦断面画像 異常信号1（横穴墓1）

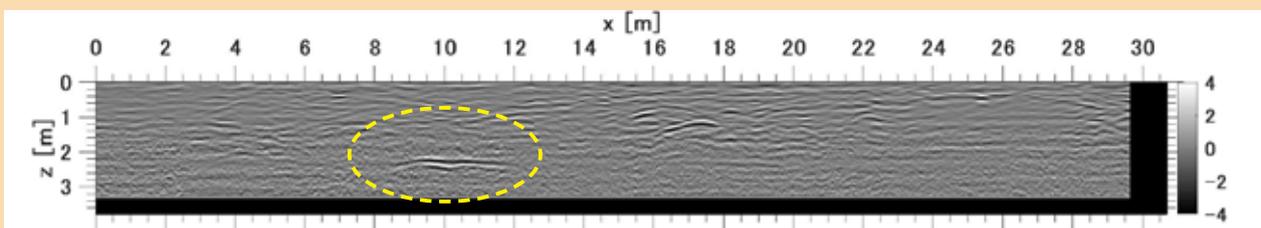


図4 縦断面画像 異常信号2（横穴墓2）

2基目の横穴墓の信号は1号横穴墓の約5m南西側に位置しています(図2)。図中の「異常信号」とは、地中になにかあると判断された部分です。2基の断面波形は図3・4の通りです。アーチ状やフラットな形状をしていることから、横穴墓の天井部分の形状に酷似していると言えるでしょう。地表面からの深さは約2.5mで、ボーリング調査時と同様です。幅は狭い部分で約2m、広い部分で約4mと、墓室の長短軸長と相似しています。

両者とも、ほぼ同じ等高線上にあり、横穴墓特有の斜面に直交する形状です。図5でいびつな形状に見えるのは、横穴墓内部に天井部分の土が落ちてしまっているからかもしれません。

また、今回は1・2号横穴墓付近の等高線データも取得しているため、今後範囲を広げて調査を実施しながら、以前の探査結果の比較検討を行うことで、どのような地形に横穴墓が造られたのか復元することが期待できます。

なお、横穴墓の発掘調査については、現地が公園で遺跡が壊れる心配がないこと、まだ公園全体の状況がわかっていないことなどから、実施は未定です。今後、継続して宝来公園内全体の地中レーダー探査を実施し、全容の解明に努めていきます。

*公園内や遺跡内を無断で掘削することは法律違反です。

(楠、(株)パスコ山下)

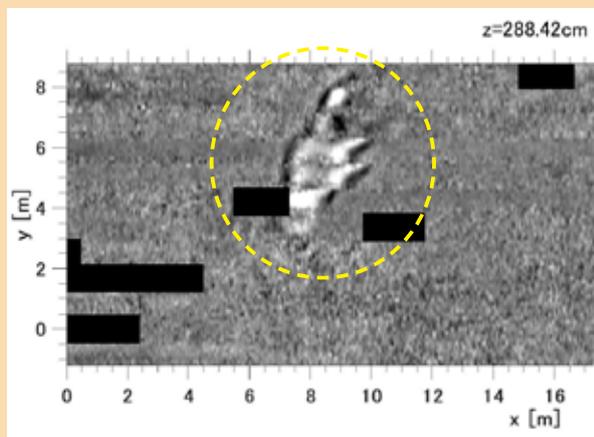


図5 水平断面画像 異常信号1(横穴墓1)

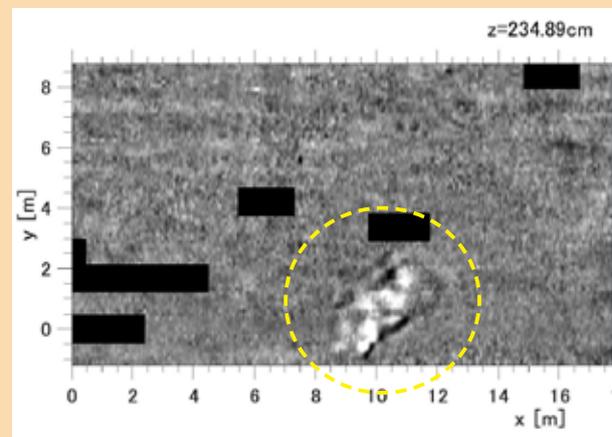


図6 水平断面画像 異常信号2(横穴墓2)

『ぶんかざいおおた』全バックナンバーHP公開開始！

令和6年4月から、これまでに刊行された『ぶんかざいおおた』第1～26号のバックナンバーを、区のホームページにすべてアップロードしました！PDF形式で全号をダウンロードしていただけます！平成10年から現在までの調査・研究・催事の様子をぜひご覧ください。中にはここでしか読めない内容もあるかも…！？



ぶんかざいおおた
バックナンバーHP
二次元コード



事業報告

令和5年度 文化財講演会

「無形文化遺産の保存と防災」

大正 12 (1923) 年に発生した関東大震災から 100 年を迎えた節目として、令和 5 年 10 月 29 日 (日) に文化財の防災をテーマとした講演会を開催しました。講師には久保田裕道氏 (東京文化財研究所 無形民俗文化財研究室長) をお招きし、無形の文化財に対する防災の取り組みをご紹介いただきました。(田島)



文化財講演会の様子

令和5年度 文化財公開見学会 「^{かずえけ}数江家住宅」

令和 5 年 11 月 23 日 (木・祝) に、令和 2 年に国登録文化財となった「数江家住宅」の見学会を開催しました。講師には大川三雄氏 (大田区文化財保護審議会委員、元日本大学教授) をお招きし、^{すきや}数寄屋風建築の魅力をお伝えいただきました。(田島)



公開見学会の様子

令和5年度 文化財写真パネル展

毎年、文化財担当は大田区立郷土博物館において、前年度の事業内容を写真パネルなどで詳しく紹介する展示を行っています。昨年度は令和 5 年 10 月 3 日から令和 6 年 1 月 14 日まで、3 階特集展示ケースにて「大田区の文化財からみた関東大震災」「^{おんたけ}馬込貝塚～イヌ 3 体埋葬遺構出土から 40 年～」「^{へんがく}御嶽神社の絵馬・扁額」の 3 テーマについて展示しました。(『ぶんかざいおおた第 26 号』内容掲載)

今年度は令和 6 年 10 月 8 日 (火) ～令和 7 年 1 月 10 日 (金) の間、同会場にて開催予定です。ぜひご来館ください。(楠)



展示の様子

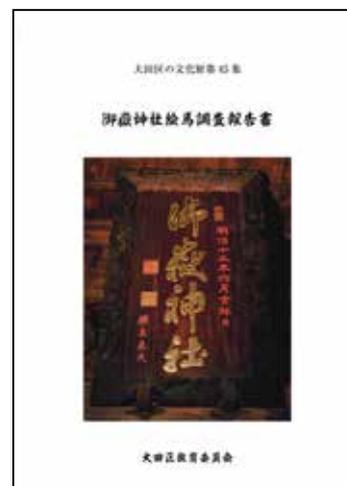
新刊のご案内

おんたけ 『御嶽神社絵馬調査報告書』 (大田区の文化財 第 45 集)



銭額「山狗」

令和 4 年に御嶽神社 (北嶺町 37-20) で実施した調査の報告書です。確認された絵馬 90 点を紹介するほか、民俗学と美術史の視点からの所見や、同年実施した社殿構造調査の成果をフルカラーで収録しています。価格は 1 冊 2,100 円。郷土博物館にて販売中です。



報告書表紙